

「日本人疱疹状皮膚炎患者におけるセリアック病合併に関する研究」へのご協力をお願い

皮膚科診療科長 御机下

拝啓、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

H26 年度に H26-28 厚生労働省の難治性疾患政策研究事業の一環として行いました疱疹状皮膚炎の疫学調査では大変お世話になりました。皆様のご協力のおかげでデータをまとめることができました。

さて、再びのお願いで大変恐縮ですが、H29-31 厚生労働省の難治性疾患政策研究事業の一環として、「日本人疱疹状皮膚炎患者におけるセリアック病合併に関する研究」の件でご依頼をさせていただきたく存じます。

これまで私たちが本邦の疱疹状皮膚炎について検討した結果、本邦患者ではグルテン過敏性腸症（セリアック病）の合併がほとんどないという間接的なデータが得られています（Ohata C, et al. Clin Dev Immunol. 2012;2012:562168. / Ohata C, et al. Br J Dermatol. 2016 ; 180-183.）。しかし、欧米症例では合併はほぼ必発であり、臨床症状があまりないセリアック病が存在することも知られています。今回、セリアック病の専門家（防衛医大内科 渡辺知佳子医師）との共同研究で、消化器的なアプローチを用いて、本邦疱疹状皮膚炎患者のセリアック病の合併について検討することにいたしました。もし、セリアック病と診断されれば、欧米例と同様にグルテン除去食にて治療することも選択できることになります。

セリアック病の消化器的な診断は IgA 抗組織トランスグルタミナーゼ抗体、DGP-OGA の測定、および上部消化管内視鏡写真、その際に十二指腸より採集した組織の HE 標本を用いて行われますが、組織学的な診断はセリアック病に精通した病理医でないと誤診しやすいという難点があります。今回は、共同研究を行う防衛医大内科の渡辺先生を通じて、セリアック病に精通した病理医に組織診断を依頼することになっています。

貴施設におきまして該当患者さんがおられましたら、本研究へのご参加をご検討いただけますと幸いです。皆様の診療にお役立ていただけるように、結果は 1-2 ヶ月でお返しする予定です。ご参加いただけるようでしたら下記までご連絡を頂戴できますと幸いです。

敬具

平成 30 年 3 月 1 日

〒830-0011 福岡県久留米市旭町 67

久留米大学医学部皮膚科学教室

大畑千佳

japanesedh@med.kurume-u.ac.jp

TEL:0942-31-7571, FAX:0942-34-2620